

本紙が選んだ企業・団体の注目の発表

アセットマネジメント

京都府流域下水道におけるストックマネジメントの取り組みについて

S-1-6

日本水工設計 佐々木隆氏

リスク評価による事業量平準化



1、研究に着手した背景とこれまでの研究内容

業は昭和47年に着手し、供用開始から約40年が経過しており、今後は大規模な改築更新の増加が予想されます。本府はこれまでも良好な水環境の保全及び、健全な下水道事業運営に向けてマネジメントに関する様々な取り組みを実施してきました。本研究では、これまでの取り組みと事業活動における実践状況を踏まえ、より効率的かつ持続可能なPDCAに向けた対応方策の確立を目的として、府内4流域下水道の1つである宮津湾流域下

水道をケーススタディとして、ストックマネジメント全体計画の検討を行いました。

2、発表に当たって特に留意したこと

施設の改築等の実施については、今年度より「下水道ストックマネジメント計画」の策定が前提となりました。制度発足後、最初の下水道研究発表会であったことから、全体の構成や流れが掴めるように、ストックマネジメントの要素技術であるリスク評価や健全度予測等の各論ではなく、総論を中心に論文内容を構成するように留意しました。

また、ストックマネジメントにより事業量の平

準化を実現するために必要となるのは、適切な維持管理であり、計画保全の見直しや、点検頻度の精査等が重要な点について紹介しました。加えて、本検討と平行して開催した年間4回のワークショップを通して、職員全体のベクトルを合わせ、知識の共有のみならず意識の共有を図る事が出来た点について発表しました。

3、発表を終えての感想

発表を行ったアセットマネジメントセッションの会場は、左右後方で立見となり大盛況でした。10分という限られた時間の中で、ストックマネジメントの全体像をお伝えすることは非常に厳しいものでしたが、駆け足な

から時間内に説明を終えることができました。質疑応答や、セッション終了後における参加者の方との雑談では、発表内容に対する有意義なご意見を頂けたことから、一定の成果を残せたのでは無いかと安堵しています。

4、今後の抱負

本検討は約1年3カ月という期間を費やし、各要素技術についても各々で検討を深めた内容でしたので、また機会があればご紹介させていただきたいと思っております。今後はリスク評価手法等それぞれの技術についてさらに深く研究し、より現場の実態に即した改築計画が立案されているように取り組んでいきたいと考えています。